

## フィールドパートナー 自己紹介カード

「フィールドパートナー」とは フィールドワークパートナーの略称。

水俣・芦北地域のフィールドで、史実に基づいて解説し、来訪者とともに考察します。

社会課題を自由に考えることを妨げない案内を心がけています。 since2011

名 前/<sup>きのした</sup>木下 <sup>まさこ</sup> 雅子

所 属/HUNKA

出 身/ 熊本県熊本市



### なぜフィールドパートナーをされているのでしょうか

「なにか使命があるのですか？」と聞かれたことがあります。そういうのではなく、単純にいろんな部分に危機感を感じていて、私ができることをしたいという気持ちでやっています。「一緒に考えてもらえないかな〜」とか、逆に「どういう価値観があるのか」など教えてもらいたいな、と思っています。すこし言葉がどもるクセがあり、頭の中を言葉にして人前で話すことが得意ではないと感じているので、そんな自分への訓練みたいな面もあります。

### あなたにとって、水俣の魅力はなんですか

いろんな意味で学びが多いところです。

海と山どちらもあるので、それぞれの暮らしや恵みと豊かさに触れられることが魅力です。

### 子どもたちや若者たちに何を伝えたいと思って案内していますか

伝えたいというより、「一緒に考えたい」という気持ちです。

### 若い人たちは、水俣から何を学んでほしいと思いますか

水俣病は、単なる昔の負の出来事ではなく、同じような構図の出来事（環境問題や異常気象はもちろん。戦争や生きにくさなど、細かく言うとつながっていると思う）は今も起きているし、その渦中。すでに自分も加害者だし被害者だということに気づいてほしい。目をそらしたくなる気持ちになるが、その地点から自分のあり方や生き方、そういったことが起きないように（考えることを諦めたり、ひとつの答えを出すというより）揺れ動くしなやかさと考え続けるしぶとさの大事さを感じてほしいと願います。それは、すごく辛いし、きついことだけど、決して一人ではなく、考えている人、行動する人は、確実にここにいることが心の支えになるといいな、と思います。そういうことに向き合える水俣という地がここあって、ずっと問題提起をしてくれていることを知り、覚えておいてくれたらうれしいと思っています。